

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	社会はり学・きゅう学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	佐々木 一泰	授業方法	講義	単位数	各1
到達目標	現代社会において、鍼灸師を取り巻く状況を様々な視点から捉え、鍼灸師が果たすべき役割について考えさせる。また、様々な分野における鍼灸治療の方法を学習することで将来に役立つ知識を身につける。			評価方法			
授業概要	教科書と学校オリジナルのプリントを用いたり、学生同士のディスカッションを交えながら学習する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	社会あはき学	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	第1章 総論						
第2週	第2章 1. 現代社会における医療制度の現状						
第3週	第2章 2. 医療保険制度および介護保険制度の概要						
第4週	第2章 3. 社会保険制度下におけるあはき治療①						
第5週	第2章 3. 社会保険制度下におけるあはき治療②						
第6週	第2章 4. 医療機関におけるあはき師の役割①						
第7週	第2章 4. 医療機関におけるあはき師の役割①						
第8週	第3章 1. 施術所におけるあはき治療①						
第9週	第3章 1. 施術所におけるあはき治療②						
第10週	第3章 2. 在宅治療						
第11週	第3章 3. 介護保険制度下での業務①						
第12週	第3章 3. 介護保険制度下での業務②						
第13週	第3章 4. 併用するその他の療法①						
第14週	第3章 4. 併用するその他の療法②						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	講義内容から各自、将来鍼灸師としての治療に携わる状況を想像して自分にできる事、したい事を考えること。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	社会はり学・きゅう学	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	佐々木 一泰	授業方法	講義	単位数	各1
到達目標	現代社会において、鍼灸師を取り巻く状況を様々な視点から捉え、鍼灸師が果たすべき役割について考えさせる。また、様々な分野における鍼灸治療の方法を学習することで将来に役立つ知識を身につける。			評価方法			
授業概要	教科書と学校オリジナルのプリントを用いたり、学生同士のディスカッションを交えながら学習する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	社会あはき学	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	第4章 1. 高齢社会におけるあはき師の役割①						
第2週	第4章 1. 高齢社会におけるあはき師の役割②						
第3週	第4章 2. 少子化社会におけるあはき師の役割①						
第4週	第4章 2. 少子化社会におけるあはき師の役割②						
第5週	第4章 3. 女性の健康管理におけるあはき師の役割①						
第6週	第4章 3. 女性の健康管理におけるあはき師の役割②						
第7週	第4章 4. ストレス社会におけるあはき師の役割①						
第8週	第4章 4. ストレス社会におけるあはき師の役割②						
第9週	第4章 5. スポーツ傷害に対するあはき師の役割①						
第10週	第4章 5. スポーツ傷害に対するあはき師の役割②						
第11週	第4章 6. QOLの向上とあはき師の役割						
第12週	第5章 1. 施術所開設に必要な法律知識						
第13週	第5章 2. 経営各論① 業務形態の決定～施術に伴うリスク管理						
第14週	第5章 3. 経営各論② 財務管理～保険取り扱いについて						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	講義内容から各自、将来鍼灸師としての治療に携わる状況を想像して自分にできる事、したい事を考えること。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	医療概論	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	佐々木 一泰	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	医療概論では医学の歴史、医療資源および医療倫理について学ぶ。			評価方法			
授業概要	教科書と学校オリジナルのプリントを用いたり、学生同士のディスカッションを交えながら学習する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	関係法規、医療概論	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	医療概論総論						
第2週	医療概論各論:現代医学の現状と課題						
第3週	医療概論各論:現代の医療制度の現状						
第4週	医療概論各論:東洋医学と西洋医学						
第5週	医療概論各論:医療倫理①(医療従事者の倫理)						
第6週	医療概論各論:医療倫理②(インフォームドコンセント)						
第7週	医療概論各論:医療倫理③(ターミナルケア)						
第8週	医療概論各論:医療倫理④(遺伝子)						
第9週	医療概論各論:医療倫理⑤(その他)						
第10週	医療概論各論:世界の医学の歴史①						
第11週	医療概論各論:世界の医学の歴史②						
第12週	医療概論各論:アジアの医学の歴史						
第13週	医療概論各論:日本の医学の歴史①						
第14週	医療概論各論:日本の医学の歴史②						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	講義内容から各自、現在の医療についての知識を深めていくように努力すること。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	関係法規	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	佐々木 一泰	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	“あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゆう師等に関する法律”について学び、鍼灸師として必要な法律知識を習得する。			評価方法			
授業概要	教科書と学校オリジナルのプリントを用いたり、学生同士のディスカッションを交えながら学習する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	関係法規、医療概論	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実 施 結 果	
第1週	序論 法とは何か						
第2週	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律①						
第3週	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律②						
第4週	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律③						
第5週	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律④						
第6週	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律⑤						
第7週	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律⑥						
第8週	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律⑦						
第9週	第2章 関係法規① 医事法規と医療制度、医療法						
第10週	第2章 関係法規② 医師法、その他の医療従事者に関する法律						
第11週	第2章 関係法規③ 薬事法規						
第12週	第2章 関係法規④ 衛生関係法規						
第13週	第2章 関係法規⑤ 社会保険関係法規						
第14週	第2章 関係法規⑥ わが国の医療制度、その他の関係法規						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	講義内容から各自、鍼灸師としての法律知識を深めていくように努力すること。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	社会保障制度及び職業倫理	授業時期	後期	授業時数	15
実務経験		担 当	佐々木 一泰	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	わが国の社会保障制度の歴史を学び、現在の鍼灸師のおかれている状況を理解するとともに、医療倫理さらに鍼灸師としての職業倫理を学ぶ。			評価方法			
授業概要	教科書と学校オリジナルのプリントを用いたり、学生同士のディスカッションを交えながら学習する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	医療概論、社会あはき学	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	現代の医療制度① 医療従事者と医療施設						
第2週	現代の医療制度② 医療と医療経済						
第3週	現代の医療制度③ 医療保険のしくみ						
第4週	現代の医療制度④ 鍼灸と医療保険制度						
第5週	医療倫理① 倫理とは						
第6週	医療倫理② 医師(医療者)の倫理、医療者-患者の倫理						
第7週	医療倫理③ 施術者としての倫理						
第8週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	講義を復習し、各自職業倫理とはどういうことか考える時間を作るようにすること。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	基礎はり実技	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	佐々木 一泰	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	鍼の名称や素材などを知り、また基本的な刺鍼方法を学び痛みの少ない刺鍼技術を習得する。			評価方法			
授業概要	教科書を用いて道具の知識や施術方法を学び、刺鍼練習器を用いて実技練習を行う。			期末試験(実技) 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	はりきゅう実技(基礎編)	使用器材	刺鍼練習器、銀鍼、鍼管、ステンレス鍼				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	道具確認 消毒などの注意事項説明						
第2週	鍼の名称 片手挿管						
第3週	片手挿管、押手の型						
第4週	片手挿管						
第5週	前揉法・後揉法、刺鍼練習器に切皮練習						
第6週	消毒の意義、刺鍼練習器に切皮練習						
第7週	前消毒から抜鍼・後消毒まで一連の動作へ						
第8週	前消毒から後消毒まで(同上)、銀鍼による旋撚術						
第9週	銀鍼、直刺、切皮練習、銀鍼による旋撚術						
第10週	銀鍼、直刺、切皮練習、銀鍼による旋撚術						
第11週	銀鍼、刺鍼練習器Aへ直刺1cm刺入(旋撚術)						
第12週	銀鍼、刺鍼練習器Aへ直刺1cm刺入(旋撚術)						
第13週	銀鍼、刺鍼練習器Aへ直刺1cm刺入(旋撚術)						
第14週	銀鍼、刺鍼練習器Aへ直刺1cm刺入(旋撚術)						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	講義時間内に出来なかった事は各自自習をするなどして技術向上に努めること。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	基礎はり実技	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	佐々木 一泰	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	鍼の名称や素材などを知り、また基本的な刺鍼方法を学び痛みの少ない刺鍼技術を習得する。			評価方法			
授業概要	刺鍼練習器を用いて実技練習を行う。			期末試験(実技) 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	はりきゅう実技(基礎編)	使用器材	刺鍼練習器、銀鍼、鍼管、ステンレス鍼				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	銀鍼、刺鍼練習器Aへ直刺1cm刺入(旋撚術)						
第2週	銀鍼、刺鍼練習器Aへ直刺1cm刺入(旋撚術)						
第3週	銀鍼、刺鍼練習器Aへ直刺1cm刺入(旋撚術)						
第4週	銀鍼、刺鍼練習器Aへ直刺1cm刺入(旋撚術)						
第5週	銀鍼、斜刺45°、直刺で刺鍼練習器Aへ直刺1cm刺入(施撚術)						
第6週	銀鍼、斜刺45°、直刺で刺鍼練習器Aへ1cm刺入(旋撚術)						
第7週	銀鍼、斜刺45°、直刺で刺鍼練習器Aへ直刺1cm刺入(施撚術)						
第8週	銀鍼、斜刺45°、直刺で刺鍼練習器Aへ1cm刺入(旋撚術)						
第9週	銀鍼、斜刺45°、直刺で刺鍼練習器Aへ1cm刺入(旋撚術)						
第10週	銀鍼、斜刺45°、直刺で刺鍼練習器Aへ1cm刺入(旋撚術)						
第11週	銀鍼、斜刺45°、直刺で刺鍼練習器Aへ1cm刺入(旋撚術)						
第12週	銀鍼、斜刺45°、直刺で刺鍼練習器Aへ1cm刺入(旋撚術)						
第13週	銀鍼、斜刺45°、直刺で刺鍼練習器Aへ直刺1cm刺入(施撚術)						
第14週	銀鍼、斜刺45°、直刺で刺鍼練習器Aへ1cm刺入(旋撚術)						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	講義時間内に出来なかった事は各自自習をするなどして技術向上に努めること。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	基礎はり実技	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	佐々木 一泰	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	鍼の名称や素材などを知り、また基本的な刺鍼方法を学び痛みの少ない刺鍼技術を習得する。			評価方法			
授業概要	刺鍼練習器を用いて実技練習を行う。技術の修得に合わせて自分の足などで人体に刺入する感覚をつかむようにする。			期末試験(実技) 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	はりきゅう実技(基礎編)	使用器材	刺鍼練習器、銀鍼、鍼管、ステンレス鍼				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	ステンレス鍼、片手挿管法の練習						
第2週	ステンレス鍼、片手挿管法の練習						
第3週	ステンレス鍼、直刺で刺鍼練習器Aへ直刺1cm刺入(施撚術)						
第4週	ステンレス鍼、直刺で刺鍼練習器Aへ直刺1cm刺入(施撚術)						
第5週	ステンレス鍼、斜刺45°で刺鍼練習器Aへ直刺1cm刺入(施撚術)						
第6週	ステンレス鍼、斜刺45°で刺鍼練習器Aへ直刺1cm刺入(施撚術)						
第7週	ステンレス鍼、直刺、自分の下肢に切皮練習						
第8週	ステンレス鍼、直刺、自分の下肢に切皮練習						
第9週	ステンレス鍼、斜刺45° 自分の下肢に切皮練習						
第10週	ステンレス鍼、斜刺45° 自分の下肢に切皮練習						
第11週	ステンレス鍼、直刺、ペアで下肢に切皮練習						
第12週	ステンレス鍼、直刺、ペアで下肢に切皮練習						
第13週	ステンレス鍼、斜刺45° ペアで下肢に切皮練習						
第14週	ステンレス鍼、斜刺45° ペアで下肢に切皮練習						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	講義時間内に出来なかった事は各自自習をするなどして技術向上に努めること。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	東洋医学概論	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	柗木 明子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	東洋医学の基礎知識、基本概念を理解する。更に、東洋医学の診断法や治療法を学ぶことにより、臨床に必要な用語・概念を理解し、2年生の東洋医学臨床論に向けて、基礎知識の修得を目指す。			評価方法			
授業概要	東洋医学概論は古代中国の基本的な思想・理論、診察から治療方法までの概要が含まれている。陰陽五行思想や天人合一思想などの思想観、気・血・津液、精と神、臓腑と経絡などの身体観、東洋医学の診察法（四診）、病因と病機、病証などの診断法と疾病観など東洋医学の基本的な知識を教授する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	東洋医学概論、配布プリント	使用器材	PC、液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	東洋医学の特徴 その① 東洋医学の沿革、人体の見方について学ぶ (教科書P2～17)						
第2週	東洋医学の特徴 その② 東洋医学的治療、日本の東洋医学の現状について学ぶ (教科書P18～36)						
第3週	東洋医学の思想「陰陽学説」その① 陰陽学説の基本内容と運用について学ぶ (教科書P182～187)						
第4週	東洋医学の思想「陰陽学説」 その② 陰陽学説の人体における陰陽について学ぶ (教科書P68～71)						
第5週	東洋医学の思想「陰陽学説」 その③ 陰陽学説のまとめについて学ぶ (教科書P68～71、P182～187)						
第6週	東洋医学の思想「五行学説」 その① 五行学説の基本内容について学ぶ (教科書P188～190)						
第7週	東洋医学の思想「五行学説」 その② 五行学説の運用について学ぶ (教科書P191～197)						
第8週	東洋医学の思想「五行学説」 その③ 五行学説の運用について学ぶ (教科書P191～197)						
第9週	生理と病理 「生理物質と神」 その① 精・気について学ぶ (教科書P38～49)						
第10週	生理と病理 「生理物質と神」 その② 血・津液について学ぶ(教科書P50～56)						
第11週	生理と病理 「生理物質と神」 その③ 生理物質の相互関係について学ぶ(教科書P38～49)						
第12週	生理と病理 「生理物質と神」 その④ 神について学ぶ(教科書P62～67)						
第13週	生理と病理 「経絡」 その① 経絡の概念・機能について学ぶ(教科書P150～152)						
第14週	生理と病理 「経絡」 その② 経絡の概念・機能について学ぶ(教科書P152～157)						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、判らない所があったらそれを書き出しておくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	東洋医学概論	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	柗木 明子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	東洋医学の基礎知識、基本概念を理解する。更に、東洋医学の診断法や治療法を学ぶことにより、臨床に必要な用語・概念を理解し、2年生の東洋医学臨床論に向けて、基礎知識の修得を目指す。			評価方法			
授業概要	東洋医学概論は古代中国の基本的な思想・理論、診察から治療方法までの概要が含まれている。陰陽五行思想や天人合一思想などの思想観、気・血・津液、精と神、臓腑と経絡などの身体観、東洋医学の診察法（四診）、病因と病機、病証などの診断法と疾病観など東洋医学の基本的な知識を教授する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	東洋医学概論、配布プリント	使用器材	PC、液晶プロジェクター				
週	授業項目、内容					実施結果	
第1週	生理と病理 「蔵象」その① 蔵象学説 臓腑、蔵象学説の要点 (教科書P74～76)						
第2週	生理と病理 「蔵象」その② 五臓とその機能に関連した領域 肝系統 (教科書P77～81)						
第3週	生理と病理 「蔵象」その③ 五臓とその機能に関連した領域 肝系統 (教科書P81～87)						
第4週	生理と病理 「蔵象」その④ 五臓とその機能に関連した領域 心系統 (教科書P84～90)						
第5週	生理と病理 「蔵象」その⑤ 五臓とその機能に関連した領域 心系統 (教科書 P90～97)						
第6週	生理と病理 「蔵象」その⑥ 五臓とその機能に関連した領域 脾系統 (教科書P97～100)						
第7週	生理と病理 「蔵象」その⑦ 五臓とその機能に関連した領域 脾系統 (教科書P97～105)						
第8週	生理と病理 「蔵象」その⑧ 五臓とその機能に関連した領域 肺系統 (教科書P106～110)						
第9週	生理と病理 「蔵象」その⑨ 五臓とその機能に関連した領域 肺系統 (教科書P110～115)						
第10週	生理と病理 「蔵象」その⑩ 五臓とその機能に関連した領域 腎系統 (教科書P115～120)						
第11週	生理と病理 「蔵象」その⑪ 五臓とその機能に関連した領域 腎系統 (教科書P120～125)						
第12週	生理と病理 「蔵象」その⑫ 五臓とその機能に関連した領域 三焦 (教科書P125～127)						
第13週	生理と病理 「蔵象」その⑬ 五臓とその機能に関連した領域 まとめ (教科書P74～105)						
第14週	生理と病理 「蔵象」その⑭ 五臓とその機能に関連した領域 まとめ (教科書P106～127)						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、判らない所があったらそれを書き出しておくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	東洋医学概論	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	柗木 明子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	東洋医学の基礎知識、基本概念を理解する。更に、東洋医学の診断法や治療法を学ぶことにより、臨床に必要な用語・概念を理解し、2年生の東洋医学臨床論に向けて、基礎知識の修得を目指す。			評価方法			
授業概要	東洋医学概論は古代中国の基本的な思想・理論、診察から治療方法までの概要が含まれている。陰陽五行思想や天人合一思想などの思想観、気・血・津液、精と神、臓腑と経絡などの身体観、東洋医学の診察法（四診）、病因と病機、病証などの診断法と疾病観など東洋医学の基本的な知識を教授する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	東洋医学概論、配布プリント	使用器材	PC、液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	生理と病理 「病因病機」その① 病因 外感病因（教科書P161～167）						
第2週	生理と病理 「病因病機」その② 病因 内傷病因、病理産物その他の要因(教科書P168～171)						
第3週	生理と病理 「病因病機」その③ 病機 病因・病位・病性の把握、内生五邪(教科書P171～173)						
第4週	生理と病理 「病因病機」その④ 病機 伝変と波及(教科書P174～179)						
第5週	四診 「望診」 (教科書P202～211)						
第6週	四診 「聞診」 (教科書P213～218)						
第7週	四診 「問診」その① (教科書P219～248)						
第8週	四診 「問診」その② (教科書P219～248)						
第9週	四診 「切診」その① (教科書P249～267)						
第10週	四診 「切診」その② (教科書P249～267)						
第11週	弁証論治 「弁証」その① (教科書P270～284)						
第12週	弁証論治 「弁証」その② (教科書P270～284)						
第13週	弁証論治 「論治」その① (教科書P285～311)						
第14週	弁証論治 「論治」その② (教科書P285～311)						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、判らない所があったらそれを書き出しておくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	経絡経穴概論 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	太田 和宏	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	経絡経穴の概要、経脈の流れ、及び経穴の位置などを理解する。			評価方法			
授業概要	経絡経穴について主に教科書とスライドを使い説明する。また、授業の冒頭で小テストを行い知識の定着を図る。			期末試験 70% 平常点 30% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	経絡経穴概論	使用器材	プロジェクター・白板				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実 施 結 果	
第1週	ガイダンス 経絡・経穴の基礎について （経絡の概要：経絡について）						
第2週	小テスト 経絡経穴の基礎残り～経穴の概要						
第3週	小テスト 解剖学的肢位について						
第4週	小テスト 骨度法について						
第5週	小テスト 要穴について（要穴の概略～背部愈穴）						
第6週	小テスト 要穴について（五愈穴・五行穴～禁鍼穴・禁灸穴）						
第7週	小テスト 督脈流注と経穴（長強～大椎：14穴）の部位						
第8週	小テスト 督脈の経穴（瘻門～鬲交：14穴）の部位						
第9週	小テスト 任脈流注と経穴（会陰～建里：11穴）の部位						
第10週	小テスト 任脈の経穴（中腕～承漿：13穴）の部位						
第11週	小テスト 手の太陰肺経流注と経穴（中府～少商：11穴）の部位						
第12週	小テスト 手の陽明大腸経流注と経穴（商陽～温溜：7穴）の部位						
第13週	小テスト 手の陽明大腸経の経穴（下廉～迎香：13穴）の部位						
第14週	小テスト 復習とテストについての説明と模擬試験問題						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	経絡経穴概論 I	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担 当	太田 和宏	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	経絡経穴の概要、経脈の流れ、及び経穴の位置などを理解する。			評価方法			
授業概要	経絡経穴について主に教科書とスライドを使い説明する。また、授業の冒頭で小テストを行い知識の定着を図る。			期末試験 70% 平常点 30% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	経絡経穴概論	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	前期の復習 足の陽明胃経流注と経穴(承泣—気舎:11穴)の部位						
第2週	小テスト 足の陽明胃経の経穴(欠盆—気衝:19穴)の部位						
第3週	小テスト 足の陽明胃経の経穴(髀關—厲兌:15穴)の部位						
第4週	小テスト 足の太陰脾経流注と経穴(隠白—陰陵泉:9穴)の部位						
第5週	小テスト 足の太陰脾経の経穴(血海—大包:12穴)の部位						
第6週	小テスト 手の少陰心経流注と経穴(極泉—少衝:9穴)の部位						
第7週	小テスト 手の太陽小腸経流注と経穴(少沢—小海:8穴)の部位						
第8週	小テスト 手の太陽小腸経の経穴(臑兪—顴髎:11穴)の部位						
第9週	小テスト 足の太陽膀胱経流注と経穴(睛明—天注:10穴)の部位						
第10週	小テスト 足の太陽膀胱経の経穴(大杼—会陽:25穴)の部位						
第11週	小テスト 足の太陽膀胱経の経穴(承扶—秩辺:19穴)の部位						
第12週	小テスト 足の太陽膀胱経の経穴(合陽—至陰:13穴)の部位						
第13週	小テスト 足の少陰腎経流注と経穴(湧泉—陰谷:10穴)の部位						
第14週	小テスト 足の少陰腎経の経穴(横骨—兪府:17穴)の部位						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	経絡経穴概論 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	太田 和宏	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	経絡経穴の概要、経脈の流れ、及び経穴の位置などを理解する。			評価方法			
授業概要	経絡経穴について主に教科書とスライドを使い説明する。また、授業の冒頭で小テストを行い知識の定着を図る。			期末試験 70% 平常点 30% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	経絡経穴概論	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実 施 結 果	
第1週	中期の復習						
第2週	手の厥陰心包経流注と経穴(天池—中衝:9穴)の部位						
第3週	小テスト 手の少陽三焦経流注と経穴(関衝—天井:10穴)の部位						
第4週	小テスト 手の少陽三焦経の経穴(清冷淵—糸竹空:13穴)の部位						
第5週	小テスト 足の少陽胆経流注と経穴(瞳子膠—完骨:12穴)の部位						
第6週	小テスト 足の少陽胆経の経穴(本神—維道:16穴)の部位						
第7週	小テスト 足の少陽胆経の経穴(居髎—足竅陰:16穴)の部位						
第8週	小テスト 足の厥陰肝経流注と経穴(大敦—曲泉:10穴)の部位						
第9週	小テスト 足の厥陰肝経の経穴(陰包—期門:8穴)の部位 奇経八脈にいて ※督脈、任脈除く						
第10週	小テスト 奇穴(四神聡—接脊:12穴)の部位と主治						
第11週	小テスト 奇穴(痞根—十宣:13穴)の部位と主治						
第12週	小テスト 奇穴(鶴頂—脚気八処:11穴)の部位と主治						
第13週	小テスト 現代的経絡経穴の研究について						
第14週	小テスト トリガーポイントについて 配布プリント						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	基礎きゅう実技	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	太田和宏	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	灸の素材・成分などを知り、艾捻り・施灸方法を学び、正しい施灸技術を習得する。 前期は米粒大の艾炷をペーパー上で規定個数以上点火出来ることを目標とする。			評価方法			
授業概要	艾、線香などの正しい使い方を身に着け、目的の艾炷を作成できるよう練習を行う。			期末試験(実技) 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	はりきゅう実技(基礎編)	使用器材	施灸練習台、艾、線香、ライター、ペーパー類				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	道具確認、消毒などの注意事項説明						
第2週	艾の種類・成分・性質、艾捻り(米粒大)、三原則の説明						
第3週	艾捻り(米粒大)、三原則の徹底、艾炷の形状を整える						
第4週	艾捻り(米粒大)、三原則の徹底、艾炷の形状を整える						
第5週	艾捻り(米粒大)、艾炷の形状を整える						
第6週	艾捻り(米粒大)、艾炷の形状を整える、施灸練習台での点火(米粒大)						
第7週	施灸練習台での点火(米粒大)						
第8週	施灸練習台での点火(米粒大)						
第9週	艾捻り(半米粒大)、ペーパー上での点火(米粒大)						
第10週	艾捻り(半米粒大)、ペーパー上での点火(米粒大)						
第11週	施灸練習台での点火(半米粒大)、ペーパー上での点火(米粒大)						
第12週	施灸練習台での点火(半米粒大)、ペーパー上での点火(米粒大)						
第13週	施灸練習台での点火(半米粒大)、ペーパー上での点火(米粒大)						
第14週	施灸練習台での点火(半米粒大)、ペーパー上での点火(米粒大)						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	基礎きゅう実技	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	太田和宏	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	艾捻り・施灸方法を学び、正しい施灸技術を習得する。 中期は自身の体を用い人体に施灸するすべを学ぶ。 半米粒大の艾炷をペーパー上で規定個数以上点火出来ることを目標とする。			評価方法			
授業概要	艾、線香などの正しい使い方を身に着け、目的の艾炷を作成できるよう練習を行う。			期末試験(実技) 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	はりきゅう実技(基礎編)	使用器材	施灸練習台、艾、線香、ライター、ペーパー類				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	ペーパー上での点火(半米粒大、米粒大)						
第2週	ペーパー上での点火(半米粒大、米粒大)						
第3週	ペーパー上での点火(半米粒大)						
第4週	ペーパー上での点火(半米粒大)						
第5週	ペーパー上での点火(半米粒大)						
第6週	ペーパー上での点火(半米粒大)						
第7週	ペーパー上での点火(半米粒大)、施灸練習台で7分灸、8分灸の練習						
第8週	ペーパー上での点火(半米粒大)、施灸練習台で7分灸、8分灸の練習						
第9週	ペーパー上での点火(半米粒大)、施灸練習台で7分灸、8分灸の練習						
第10週	ペーパー上での点火(7分灸、8分灸、半米粒大)						
第11週	ペーパー上での点火(半米粒大)、自分の下肢に7分灸、8分灸の練習						
第12週	ペーパー上での点火(半米粒大)、自分の下肢に7分灸、8分灸の練習						
第13週	ペーパー上での点火(半米粒大)、自分の下肢に7分灸、8分灸の練習						
第14週	ペーパー上での点火(半米粒大)、自分の下肢に7分灸、8分灸の練習						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						

授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	基礎きゅう実技	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	太田和宏	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	艾捻り・施灸方法を学び、正しい施灸技術を習得する。 後期は他者に対する施灸法を学ぶ。また半粒大の艾炷をペーパー上で規定個数以上 点火出来ること、米粒大の八分灸をペーパー上で施灸できることを目標とする。			評価方法 期末試験(実技) 100% (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	艾、線香などの正しい使い方を身に着け、目的の艾炷を作成できるよう練習を行う。						
教科書等	はりきゅう実技(基礎編)	使用器材	施灸練習台、艾、線香、ライター、ペーパー類				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実 施 結 果	
第1週	ペーパー上での点火(半米粒大)、自分の下肢に7分灸、8分灸の練習						
第2週	ペーパー上での点火(半米粒大)、自分の下肢に7分灸、8分灸の練習						
第3週	ペーパー上での点火(半米粒大)、ペアで7分灸、8分灸の練習						
第4週	ペーパー上での点火(半米粒大)、ペアで7分灸、8分灸の練習						
第5週	ペーパー上での点火(半米粒大)、ペアで7分灸、8分灸の練習						
第6週	ペーパー上での点火(半米粒大)、ペアで7分灸、8分灸の練習						
第7週	ペーパー上での点火(半米粒大)、ペアで7分灸、8分灸の練習						
第8週	ペーパー上での点火(半米粒大)、自分の下肢に半米粒大の施灸						
第9週	ペーパー上での点火(半米粒大)、ペアで半米粒大の練習						
第10週	ペーパー上での点火(半米粒大)、ペアで半米粒大の練習						
第11週	ペーパー上での点火(半米粒大)、ペアで半米粒大の練習						
第12週	ペーパー上での点火(半米粒大)、ペアで半米粒大の練習						
第13週	ペーパー上での点火(半米粒大)、糸状灸の練習						
第14週	ペーパー上での点火(半米粒大)、糸状灸の練習、期末試験概要説明						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	解剖学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	星野 英二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1.骨の基本構造・機能を説明できる。 2.人体を構成する骨とその各部の名称を説明できる。 3.関節の構造とその運動について説明できる。 4.筋の基本構造・機能を説明できる。 5.人体各部の筋とその起始・停止、支配神経、作用について説明できる。			評価方法			
授業概要	人体の構造と機能を学び、鍼灸師として必要な基礎学力を身につけることを目的とする。			期末試験 50% 中間試験 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学 第2版 医歯薬出版	使用器材	パワーポイント				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	第10章 運動器系 [10- I .総論] 1.骨格系						
第2週	2.筋系						
第3週	[10- II .全身の骨格] 1.脊柱 1)脊柱の構成 2)各部の椎骨						
第4週	3)脊柱の弯曲 2.胸郭						
第5週	3.上肢の骨格 1)上肢帯の骨						
第6週	2)自由上肢の骨 3)上肢の関節						
第7週	4.下肢の骨格 1)下肢帯の骨						
第8週	2)自由下肢の骨 3)下肢の関節						
第9週	中間試験						
第10週	5.頭蓋骨 1)頭蓋骨の成り立ち 2)脳頭蓋をつくる骨						
第11週	3)顔面頭蓋をつくる骨 4)頭部の関節・顎関節						
第12週	[10- III .体幹] 1.体幹の筋 1)胸筋						
第13週	2)腹筋 3)会陰筋 4)背筋						
第14週	2.体幹の運動 1)体幹の前屈・後屈 2)体幹の側屈 3)体幹の回旋 4)呼吸運動 3.体幹の局所解剖 1)胸部 2)腹部 3)会陰 4)背部						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	解剖学Ⅰ	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	星野 英二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1.人体各部の筋とその起始・停止、支配神経、作用について説明できる。 2.人体を構成する細胞、組織について説明できる。 3.体表（皮膚）の構造・機能を説明できる。			評価方法			
授業概要	人体の構造と機能を学び、鍼灸師として必要な基礎学力を身につけることを目的とする。			期末試験 50% 中間試験 50% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	解剖学 第2版 医歯薬出版	使用器材	パワーポイント				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	[10-Ⅳ.上肢] 1.上肢の筋 1)上肢帯の筋 2)上腕の筋						
第2週	3)前腕の筋 4)手の筋						
第3週	2.上肢の運動 3.上肢の局所解剖						
第4週	[10-Ⅴ.下肢] 1.下肢の筋 1)下肢帯の筋						
第5週	2)大腿の筋 3)下腿の筋 4)足の筋						
第6週	2.下肢の運動 3.下肢の局所解剖 1)大腿前面 2)殿部 3)膝窩 4)下腿の筋区画 5)足部						
第7週	[10-Ⅵ.頭頸部] 1.頭頸部の筋 1)頭部の筋 2)頸部の筋 2.頭頸部の体表および局所解剖						
第8週	中間試験						
第9週	第1章 人体の構成 1.細胞 1)細胞の構造 2)細胞分裂と遺伝子						
第10週	2.組織 1)上皮組織						
第11週	2)結合組織						
第12週	3)筋組織						
第13週	4)神経組織						
第14週	3.体表構造 1)皮膚の表面積 2)皮膚の構造 3)皮膚の神経・血管 4)毛 5)爪 6)皮膚腺 4.人体の区分と方向						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	解剖学 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	星野 英二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1.循環器系を構成する各器官の構造・機能について説明できる。 2.呼吸器系を構成する各器官の構造・機能について説明できる。			評価方法			
授業概要	人体の構造と機能を学び、鍼灸師として必要な基礎学力を身につけることを目的とする。			期末試験 50% 中間試験 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学 第2版 医歯薬出版	使用器材	パワーポイント				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	第2章 循環器系 1.血管系 1)循環の概要 2)血管の構造 3)吻合 4)門脈						
第2週	2.心臓 1)心臓の位置 2)心膜 3)心臓の壁 4)心房と心室 5)心臓の弁膜 6)刺激伝導系 7)心臓の血管						
第3週	3.動脈系 1)肺循環の動脈系 2)体循環の動脈系 (大動脈、上行大動脈および大動脈弓とその枝、胸大動脈とその枝)						
第4週	2)体循環の動脈系 (腹大動脈とその枝、総腸骨動脈・内腸骨動脈とその枝)						
第5週	2)体循環の動脈系 (頭頸部の動脈、上肢の動脈、下肢の動脈)						
第6週	4.静脈系 1)肺循環の静脈系 2)体循環の静脈系 (頭頸部の静脈、上大静脈に注ぐ枝、下大静脈に注ぐ枝)						
第7週	2)体循環の静脈系 (門脈系、奇静脈系、上肢・下肢の皮静脈)						
第8週	中間試験						
第9週	5.胎児 1)胎児循環の経路 2)胎児循環の切り替わり						
第10週	6.リンパ系 1)リンパ系全体像 2)リンパ管構造 3)全身リンパ本幹						
第11週	4)リンパ系器官(リンパ節、脾臓、胸腺、扁桃と集合リンパ小節)						
第12週	第3章 呼吸器系 1.鼻腔・副鼻腔 1)鼻腔 2)副鼻腔						
第13週	2.咽頭・喉頭 1)咽頭 2)喉頭 3.気管と気管支						
第14週	4.肺 1)肺葉 2)肺区域 3)肺胞 4)胸膜 5)縦隔						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	経絡経穴概論Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	60(30)
実務経験		担当	星野 英二	授業方法	講義	単位数	2(1)
到達目標	1.取穴に必要な体表解剖を習得し触知できる。 2.正経十二経脈、督脈、任脈の主要な経穴を骨度法を用いて取穴できる。			評価方法			
授業概要	経絡経穴概論Ⅰで学んだ経穴を実際に人体で取穴できることを目指す。 体表解剖の視点から目標となる基準点（骨・筋・関節など）の触診技術を習得する。			期末試験 50% 中間試験 50% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	経絡経穴概論	使用器材	液晶プロジェクター、ポイントシール、メディスンペン				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	ガイダンス 骨度法の部位 解剖学的肢位 体表指標						
第2週	督脈(背部の触察、主要な経穴の取穴) 任脈(腹部の触察、主要な経穴の取穴)						
第3週	手の太陰肺経(上肢前面の触察、主要な経穴の取穴) 手の陽明大腸経(上肢後面の触察、主要な経穴の取穴)						
第4週	足の陽明胃経(顔面部・前頸部・腹部・下肢前面の触察、主要な経穴の取穴)						
第5週	足の太陰脾経(腹部・下肢内側の触察、主要な経穴の取穴)						
第6週	手の少陰心経(上肢前面の触察、主要な経穴の取穴) 手の太陽小腸経(背部・上肢後面の触察、主要な経穴の取穴)						
第7週	足の太陽膀胱経(後頸部、腰背部の触察、主要な経穴の取穴)						
第8週	中間試験						
第9週	足の太陽膀胱経(下肢後面の触察、主要な経穴の取穴)						
第10週	足の少陰腎経(腹部・下肢内側の触察、主要な経穴の取穴)						
第11週	手の厥陰心包経(上肢前面の触察、主要な経穴の取穴) 手の少陽三焦経(顔面部・側頸部・上肢後面の触察、主要な経穴の取穴)						
第12週	足の少陽胆経(顔面部・側頸部・側腹部の触察、主要な経穴の取穴)						
第13週	足の少陽胆経(下肢外側の触察、主要な経穴の取穴)						
第14週	足の厥陰肝経(腹部・下肢内側の触察、主要な経穴の取穴)						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	生理学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	中川 裕理	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	人体の機能のうち、生理学の基礎と循環についてを修得する。			評価方法			
授業概要	人体の仕組みを学び、生命現象の機序を理解する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	生理学-第3版- 東洋療法学校協会	使用器材	教科書及び配布プリント				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	生理学という科目について 第1章 生理学の基礎 生理学の特徴						
第2週	第1章 生理学の基礎 細胞の構造と機能						
第3週	第1章 生理学の基礎 物質代謝 体液の組成と働き						
第4週	第1章 生理学の基礎 物質移動						
第5週	第2章 循環 血液の組成と働き(前)						
第6週	第2章 循環 血液の組成と働き(後)						
第7週	第2章 循環 止血 線維素溶解						
第8週	第2章 循環 血液型 心臓血管系						
第9週	第2章 循環 心臓の構造と働き(前)						
第10週	第2章 循環 心臓の構造と働き(後)						
第11週	第2章 循環 血液循環(前)						
第12週	第2章 循環 血液循環(後)						
第13週	第2章 循環 循環調節(前)						
第14週	第2章 循環 循環調節(後) リンパ系						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	予習・復習は、教科書を熟読すること。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	生理学 I	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	中川 裕理	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	呼吸器系、消化器系、代謝について理解する。			評価方法			
授業概要	人体の仕組みを学び、生命現象の機序を理解する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	生理学-第3版- 東洋療法学校協会	使用器材	教科書及び配布プリント				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	第3章 呼吸	呼吸器					
第2週	第3章 呼吸	換気とガス交換					
第3週	第3章 呼吸	呼吸運動とその調節(前)					
第4週	第3章 呼吸	呼吸運動とその調節(後)					
第5週	第4章 消化と吸収	消化と吸収					
第6週	第4章 消化と吸収	消化管の運動(前)					
第7週	第4章 消化と吸収	消化管の運動(後)					
第8週	第4章 消化と吸収	消化液(前)					
第9週	第4章 消化と吸収	消化液(後)					
第10週	第4章 消化と吸収	吸収					
第11週	第4章 消化と吸収	肝臓の働き 摂食の調節					
第12週	第5章 代謝	食品と栄養素 代謝					
第13週	第5章 代謝	各栄養素の働きと代謝(前)					
第14週	第5章 代謝	各栄養素の働きと代謝(後)					
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	予習・復習は、教科書を熟読すること。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	生理学 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	中川 裕理	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	体温、排泄、内分泌、免疫について理解する。			評価方法			
授業概要	人体の仕組みを学び、生命現象の機序を理解する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	生理学-第3版- 東洋療法学校協会	使用器材	教科書及び配布プリント				
週	授 業 項 目 内 容					実施結果	
第1週	第6章 体温	体温調節 体熱の産生と放散					
第2週	第6章 体温	発汗とその調節 体温調節の障害					
第3週	第7章 排泄	腎臓の働き 腎循環					
第4週	第7章 排泄	尿生成					
第5週	第7章 排泄	腎臓と体液の調節 蓄尿と排尿					
第6週	第8章 内分泌	ホルモンの特徴					
第7週	第8章 内分泌	ホルモンの種類とその働き①					
第8週	第8章 内分泌	ホルモンの種類とその働き②					
第9週	第8章 内分泌	ホルモンの種類とその働き③					
第10週	第8章 内分泌	ホルモンの種類とその働き⑤					
第11週	第8章 内分泌	ホルモンの種類とその働き⑥					
第12週	第9章 生殖・成長と老化	生殖 妊娠と出産					
第13週	第9章 生殖・成長と老化	成長 老化					
第14週	第14章 生体の防御機構						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	予習・復習は、教科書を熟読すること。						

授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	経絡経穴概論Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	60(30)
実務経験		担当	原 敬昌	授業方法	講義	単位数	2(1)
到達目標	1 陰陽五行について理解し、生体の構成や病理変化について、東洋医学のおよび中医学的観点から把握することができる。 2 基本的な弁証論治を学び、症候に基づいて選穴、配穴ができるようになる。			評価方法			
授業概要	経絡経穴概論Ⅰを踏まえて、さらに専門的な経絡経穴学を学習する科目である。本科目では、これまでに学習した東洋医学概論、鍼灸診断学の関連知識を用いて経絡経穴の治療上の臨床的な運用法を理解する。			期末試験 90% 課題提出 10% (100点換算で60点以上は合格)			
教科書等	1)新版 東洋医学概論 2)新版 経絡経穴概論、3)ツボ単	使用器材	ホワイトボード、PC及びタブレット、液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	「ガイダンスと経絡経穴の概要」 経絡の種類と役割、経穴の意義について復習し、選穴と配穴に至るまでに必要な行程(診察)を確認する。 教科書1)pp.30-6, 150-60, 201-67, 2)pp.2-15, 212-4, 3)pp.xxviii-xxxv, pp.8, 78						
第2週	「気概念と陰陽五行」 古代中国哲学の陰陽論、五行論を復習し、気概念から生体を構成する五臓六腑の働きを学ぶ。 教科書1)pp.13-6, 37-149, 182-200						
第3週	「鍼灸治法と鍼灸処方概論」 中医学における鍼灸治療の概要を理解し、選穴および配穴の原則を理解する。 教科書1)pp.16-22, 34-6, 284-8, 298-306						
第4週	「鍼灸治則と弁証論治」 中医学における鍼灸治療の特徴と弁証論治の進め方を学ぶ。 教科書1)pp.16-22, 285-8, 307-11						
第5週	「八綱弁証と経穴」 8つの判断基準を用い人体の状況を把握し、基本的な配穴を学ぶ。 教科書1)pp.270-3, 288-97, 2)pp.26-209, 3)pp.1-273						
第6週	「気血津液弁証と経穴」 生体の生体物質である気・血・津液の状況を把握し、基本的な配穴を学ぶ。 教科書1)pp.273-5, 285-93, 2)pp.26-209, 3)pp.1-273						
第7週	「臓腑弁証と経穴①」 各臓腑の生理作用に基づき、現れた症候を分析、全体的な病機を把握し、基本的な配穴を学ぶ。 教科書1)pp.275-80, 285-95, 2)pp.26-209, 3)pp.1-273						
第8週	「臓腑弁証と経穴②」 各臓腑の生理作用に基づき、現れた症候を分析、全体的な病機を把握し、基本的な配穴を学ぶ。 教科書1)pp.275-80, 285-95, 2)pp.26-209, 3)pp.1-273						
第9週	「臓腑弁証と経穴③」 各臓腑の生理作用に基づき、現れた症候を分析、全体的な病機を把握し、基本的な配穴を学ぶ。 教科書1)pp.275-80, 285-95, 2)pp.26-209, 3)pp.1-273						
第10週	「外感病に対する弁証と経穴」 外感病の進行過程で現れる症候を把握し、基本的な配穴を学ぶ。 教科書1)pp.280-4, 295-97, 2)pp.26-209, 3)pp.1-273						
第11週	「経絡弁証と経穴」 経絡とそれに属する臓腑に関連する症候を把握し、基本的な配穴を学ぶ。 教科書1)p.157, 280, 2)pp.26-209, 3)pp.1-273						
第12週	「症例検討1」 これまでに学習した内容を踏まえて、提示された症例の弁証論治を行う。						
第13週	「症例検討2」 これまでに学習した内容を踏まえて、提示された症例の弁証論治を行う。						
第14週	「総まとめ」 学習内容の補填や試験対策などを行う。						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	1 東洋医学概論で学んだ内容を踏まえた授業内容になりますので、授業で理解不足だと感じた点や分からない単語はしっかり復習してノートにまとめましょう。 2 経穴全体の位置把握と要穴表の活用は経絡経穴の学習に置いて重要になりますので、経絡経穴図と要穴表の暗記に努めてください。						

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	保健科学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸施術院の院長	担当	藤田 桂子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 ストレッチの種類を理解し、スタティックストレッチを体感し、実演出来るようになる。 2 筋の種類や起始-停止、生理的特徴を理解しイメージできる。			評価方法			
授業概要	筋肉の動きや解剖の知識を理解し、ストレッチ(主にスタティックストレッチ)や穴などで体感しながら、臨床現場で必要な技術の習得を行う。体感することで、基礎知識の理解を更に深めることを目的とする。			期末試験 80% 小テスト 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学 全部わかる人体解剖図	使用器材	パワーポイント、プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	ガイダンス 保健科学I ストレッチとは						
第2週	ストレッチの注意点 ストレッチ実技						
第3週	筋肉の基本、全部分かる人体解剖図教科書（P38、43） 神経・筋について（P119）						
第4週	部位別(筋肉別)上腕二頭筋 解剖・ストレッチ・穴（P240、180）						
第5週	部位別(筋肉別)上腕三頭筋 解剖・ストレッチ・穴（P242、180、181）						
第6週	部位別(筋肉別)大胸筋 解剖・ストレッチ・穴（P211、177、180、181）						
第7週	部位別(筋肉別)広背筋 解剖・ストレッチ・穴（P220、221、170、180）						
第8週	部位別(筋肉別)三角筋 解剖・ストレッチ・穴（P237、181）						
第9週	部位別(筋肉別)僧帽筋 解剖・ストレッチ・穴（P221、253）						
第10週	部位別(筋肉別)大腿四頭筋 解剖・ストレッチ・穴（P269、187、191）						
第11週	部位別(筋肉別)ハムストリング 解剖・ストレッチ・穴(鷺足について)（P274、191）						
第12週	部位別(筋肉別)下腿三頭筋 解剖・ストレッチ・穴（P278、191）						
第13週	筋の生理学的特徴						
第14週	試験前まとめ						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	小テストを行う前には、事前に復習を行うこと。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	保健科学 I	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験	鍼灸施術院の院長	担当	藤田 桂子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 スタティックストレッチが実演、メニュー作成ができ指導できるようになる。 2 筋の生理的特徴を理解し、各部位にどんな骨格筋があるのか起始-停止、その部位の特徴の理解を深める。 3 臨床でよく使用する各部位のツボを理解する。			評価方法			
授業概要	筋肉の動きや解剖の知識を理解し、ストレッチ(主にスタティックストレッチ)や穴などで体感しながら、臨床現場で必要な技術の習得を行う。体感することで、基礎知識の理解を更に深めることを目的とする。			実技評価 40% 小テスト 10% 期末試験 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学 全部わかる人体解剖図	使用器材	パワーポイント、プロジェクター				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	ストレッチの実際と注意点・方法						
第2週	ストレッチのメニュー作成						
第3週	指導案の打ち合わせ・作成						
第4週	指導案の打ち合わせ・作成						
第5週	指導案の打ち合わせ・作成						
第6週	ストレッチ発表						
第7週	筋のエネルギー供給機構						
第8週	筋の生理的特徴とエネルギー供給機構から見た、トレーニング・運動指導・ストレッチについて①						
第9週	筋の生理的特徴とエネルギー供給機構から見た、トレーニング・運動指導・ストレッチについて②						
第10週	腹筋群(腹直筋・外腹斜筋・内腹斜筋・腹横筋) 起始-停止・作用 (P215、217)						
第11週	腹筋群 ストレッチ・穴						
第12週	臀筋群(大臀筋・中臀筋・小臀筋・大腿筋膜張筋) 起始-停止・作用 (P187)						
第13週	臀筋群 ストレッチ・穴						
第14週	試験前まとめ						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	1 小テストを行う前には、事前に復習を行うこと。 2 実技発表の前には、必要であればチームで練習を行うと良い。						

授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	保健科学 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	鍼灸施術院の院長	担当	藤田 桂子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 各部位ごとの評価方法を理解し、実践できるようになり、ストレッチ指導ができるようになる。 2 合わせて、ツボからの治療方法を理解する。 3 骨格筋の起始-停止を幅広く理解する。 4 人前で分かり易く発表、説明ができるようになる。(コミュニケーション力の構築)			評価方法			
授業概要	筋肉の動きや解剖の知識を理解し、ストレッチ(主にスタティックストレッチ)や穴などで体感しながら、臨床現場で必要な技術の習得を行う。体感することで、基礎知識の理解を更に深めることを目的とする。			期末テスト 60% 発表20% 小テスト20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学	使用器材	パワーポイント、プロジェクター				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	梨状筋・腸腰筋・腰方形筋・脊柱起立筋 起始-停止・作用 (P266)						
第2週	梨状筋・腸腰筋・腰方形筋・脊柱起立筋 ストレッチ・穴 (P266、217、223)						
第3週	腰の痛みに対する評価(SLR含む。)アプローチ法 ストレッチ・穴						
第4週	ローテーターカフ (棘上筋・棘下筋・肩甲下筋・小円筋) 起始-停止・作用 (P237)						
第5週	ローテーターカフ ストレッチ・穴						
第6週	肩の痛みに対する評価アプローチ法 ストレッチ・穴						
第7週	神経について(中枢神経・末梢神経・神経叢) (P122、136、138)						
第8週	腕神経叢 肘の痛みに対する評価アプローチ法 ストレッチ・穴(テニス肘、ゴルフ肘)						
第9週	腰神経叢・仙骨神経叢						
第10週	前脛骨筋・後脛骨筋 起始-停止・作用 (P275、278)						
第11週	前脛骨筋・後脛骨筋 ストレッチ・穴						
第12週	膝の痛みに対する評価アプローチ法 ストレッチ・穴						
第13週	足の痛みに対する評価アプローチ法 ストレッチ・穴						
第14週	試験前まとめ						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	1 小テストを行う前には、事前に復習を行うこと。 2 発表担当者は、事前に予習をして人前で話す練習をしておくこと。						

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	患者心理学(コミュニケーション学)	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	津田 彰	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 患者心理について理解し、各疾患における特徴の概要を述べることができる。 2 医療者-患者関係のについて理解し、効果的なコミュニケーション技法を修得する。 3 生物心理社会的モデルに基づいて健康支援を展開できる。			評価方法			
授業概要	患者本位の全人的な医療を実践するという心を持ち、それが態度に表れ、患者と共感的態度で接することができる医療者を育成するための患者心理学の考え方と方法について学ぶ			期末試験 80% 小レポート 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	医療の行動科学Ⅱ	使用器材	液晶プロジェクター、ビデオ				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	患者心理学の目標、ガイダンス： 患者の心理と行動を理解するためにコミュニケーション学との学融について概説する						
第2週	医療場面における印象形成： 対人関係の心理に影響する関連要因を理解する						
第3週	自己理解と他者理解： 他者理解の前提となる自己を多面的にアセスメントする						
第4週	パーソナリティ検査： 患者理解の鍵概念としてパーソナリティについて理解する						
第5週	医療チームにおける意思決定過程： 小集団活動を通してアクティブラーニングを行う						
第6週	対人的コミュニケーション： 医療現場における患者の話の聞き方、応え方について実習する						
第7週	チーム医療の展開： 他職種との連携について理解する						
第8週	医療従事者の適性： 治療的自分をどのように育むか医療人教育について理解する						
第9週	カウンセリングマインド： 対人援助の技法についての考え方とスキルについて学ぶ						
第10週	心理アセスメント： 患者の心理と行動を見立てるための技法につて修得する						
第11週	ストレスのメカニズムと対処： ストレスとは何か最新の知識を学ぶ						
第12週	パーソナリティ、ストレスと健康： 病気と健康を左右するパーソナリティの重要性を認識する						
第13週	ストレスマネジメント： ストレス予防のための知識と技法を修得する						
第14週	総括						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	1 講義に臨む前に前週に配布された資料の該当箇所を読んでおき、分からない所があったらそれらを書き出しておくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 1年	科目名	患者心理学(コミュニケーション学)	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	津田 彰	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 患者心理について理解し、各疾患における特徴の概要を述べることができる。 2 医療者-患者関係のについて理解し、効果的なコミュニケーション技法を修得する。 3 生物心理社会的モデルに基づいて健康支援を展開できる。			評価方法			
授業概要	患者本位の全人的な医療を実践するという心を持ち、それが態度に表れ、患者と共感的態度で接することができる医療者を育成するための患者心理学の考え方と方法について学ぶ			期末試験 80% 小レポート 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	医療の行動科学Ⅱ	使用器材	液晶プロジェクター、ビデオ				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	医療行動科学とは何か：今日の医療を支える全人的医療の理念について学ぶとともに、その展開をoverviewする						
第2週	患者の心理と行動について、医療者として基本的知識を修得する						
第3週	病気と健康の生物心理社会的モデルの考え方と展開について学ぶことで、患者支援の具体的なアプローチを知る						
第4週	痛みの心理学：痛みは感覚であり、情動体験でもあり、行動として表現されることについて理解する						
第5週	痛みの心理学的支援：慢性疼痛の認知行動療法的アプローチを修得する						
第6週	がん患者の心理：集学的支援の重要性とその具体的アプローチを理解する						
第7週	がんへのポジティブ心理学的アプローチ：全人的アプローチの理論と実際について理解する						
第8週	糖尿病患者の心理と行動：セルフケア行動を支援するコミュニケーション技法を修得する						
第9週	望ましい健康行動への変容：多理論統合モデルに基づく健康支援法を修得する						
第10週	ライフスタイルとストレス：ストレスの生物心理社会的モデルを理解する						
第11週	依存行動(禁煙, アルコール依存症など)の変容：動機づけ面接を体験する						
第12週	精神疾患へのアプローチ：アセスメントと心理学的支援について理解する						
第13週	過労死とうつ病：ストレスチェックなどワークストレス対策を理解する						
第14週	総括						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	1 講義に臨む前に前週に配布された資料の該当箇所を読んでおき、分からない所があったらそれらを書き出しておくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						